

ほっとネット

Contents

- P1 巻頭言**
平成から次の時代に向けて
麻酔科 副院長 清水 斎
- P2 診療科紹介**
カプセル内視鏡について
消化器内科 医療安全推進部長 安達 雄哉
- P3 診療科発**
歯の移植・再植
歯科口腔外科 科長 小林 一三
- P3 新任医師紹介**
- P4 診療最新情報**
排便造影検査
外科・こう門外科 副院長 鶴間 哲弘
- P5 最近の話題**
多目的TV新装置
中央放射線室 秋林 毅幸
- P5 栄養管理室便り**
行事食
栄養管理室 村仲 聡子
- P6 地域発**
ごう在宅クリニック
院長 中嶋 豪先生



新任ナース



スプリングコンサート



地域包括ケア病棟「レスパイト入院」のお知らせ
JR札幌病院 間違い探しゲーム

JR札幌病院 基本理念

心の通う医療
信頼される医療
地域社会に貢献する医療

基本方針

1. 社会のニーズに合った専門的な医療を提供するよう、医療技術の向上に努めます。
2. 患者様の権利を尊重し、プライバシーを守ります。
3. 地域の各機関との連携を重視し、地域医療に貢献します。
4. JR北海道の職域病院として、社員・家族の健康増進に寄与します。



巻頭言

平成から次の時代に向けて

みなさんがこの原稿を読むときは、あらたな元号が始まっていると思います。平成の時代に、私の専門は麻酔科ですが、外科手術・麻酔を中心に救急・集中治療、疼痛・緩和治療と、診療する機会を得ました。この30年余でどのような変化があったか、そして当院の次の時代向けの取り組みを簡単に紹介したいと思います。

まず、手術関連では、平成の時代に内視鏡手術が開発され、一般化したことが挙げられます。以前の腹部がんの手術は大きな切開が必要で、そのため術後の回復にも時間を要しました。内視鏡システムを用いた腹腔鏡手術は、小さな傷で、体への侵襲が少なく早期離床を可能にしました。このことは、患者さんの高齢化にうまくマッチし急速に普及しました。当院では、早期から内視鏡手術を取り入れ、さらに2016年にハイビジョン3次元内視鏡システムを導入し、難度の高い腹腔鏡手術も実施できる体制を構築してきました。今後は、手術支援ロボットの導入を検討しています。

救急・集中治療部門でも様々な進歩がありましたが、その中でも急性心筋梗塞の再灌流治療が大きく進歩し、病院での心筋梗塞の死亡率は数%台になりました。同時に病院前救護の面でも、救急救命士制度がはじまり、一般市民も

AEDの使用が可能となり、病院外での心停止患者の社会復帰率も向上しました。当院では、以前より急性心筋梗塞をはじめとした重症患者を受け入れてきましたが、2017年にハイケアユニットを開設し、受け入れ体制をさらに強化させ対応しています。

疼痛・緩和医療では、2006年にがん対策基本法が制定され、癌の治療と同時に緩和医療も推進されました。当院は、2016年に北海道がん診療連携指定病院の指定を受け、緩和ケアチーム活動も活発になりました。一方で、新たな抗がん剤の開発は、進行がん患者の生存期間を延長させ、その結果、緩和医療は終末期のケアから、がん治療を続けながら生きることへのサポートに変わってきました。そうした流れに沿って、当院もがん治療開始早期から、患者さんやその家族を含めて、緩和ケアチームが関われる体制を構築しているところです。

次の時代の主役は、ICT(情報通信技術)とAI(人工頭脳)と言われています。こうした進化に遅れることなく、病院機能を高めることは当然ですが、当院の基本理念の「心の通う医療」を原点において、信頼される病院を目指していきたいと思っています。



麻酔科
副院長
清水

斎



フルハイビジョン3Dシステム



がんサロン 虹色カフェ



診療科紹介

カプセル内視鏡について

消化器内科では、私を含め現在4名の常勤医師が在籍しております。人数は少ないですが、消化管疾患に対する内視鏡診断および治療を得意とする栗原弘義医師、胆膵疾患の先端診療を大学病院で長期間担ってきた志谷真啓医師、そして消化器全域に対応可能で細やかな診療を実践できる伊藤美樹医師と、消化器領域全般に対応できる人員がそろいました。

そのような診療環境の中、今回はカプセル内視鏡についてお伝えしたいと思います。

【小腸カプセル内視鏡検査とは】

これまでの小腸の病変診断は、従来の胃や大腸の内視鏡では届かないため検査ができず、小腸造影検査やCTなどのX線診断に頼らざるを得ませんでした。小腸は長らく『暗黒の大陸』と呼ばれ、小腸疾患の診断・治療は消化器疾患の中でも後れをとっていましたが、平成13年に開発された小腸カプセル内視鏡の登場によって大きく変わりました。

患者さんが約2cmの小腸カプセル内視鏡を飲むことにより、全長6～7mと長い小腸の粘膜を観察でき、その結果、今まで原因不明とされていた消化管出血や腹痛の診断など、患者さんへの負担なく簡便に行えるようになりました。当院では平成31年3月1日より本格的に導入致しましたのでお知らせ致します。

【このような患者さんが対象となります】

▶原因不明の消化管出血（黒色便、血便、原因不明の貧血、繰り返す便潜血反応陽性

従来の検査法である胃内視鏡検査や大腸内視鏡検査を実

施しても出血の原因がわからない
原因不明の消化管出血の場合

▶原因不明の腹痛、下痢などで小腸
疾患が疑われる場合

小腸疾患が既知または疑われる場合

《主な小腸疾患・病態》

クローン病・小腸腫瘍・消化管ポリポース・小腸血管性病変・蛋白漏出性腸症

吸収不良症候群・NSAID腸炎・放射線性腸炎など

※クローン病などの狭窄（腸が狭い状態）や通過障害（腸閉鎖等）が疑われる場合にはパテンシーカプセル（吸収性のダミーカプセル）により、消化管が開通しているかの判定を行います。

【費用】

保険適用	約20,000円程度（診察料、3割負担）
------	----------------------

※難病（クローン病）医療費助成制度、高額療養費医療制度に準じます特定疾患認定

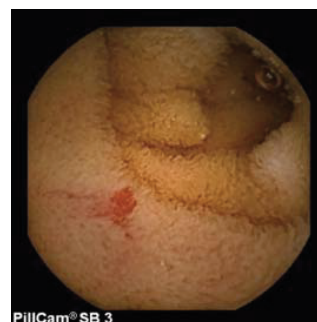
入院に関しては、5階同一フロアに消化器内科と消化器外科を配置し、医師同士、垣根なく消化器疾患の診療を行っております。内科外科どちらに紹介しようか迷うことがあれば、ぜひご紹介いただくと幸いです。消化器内科医師、看護師、薬剤師、放射線技師、理学療法士、医療ソーシャルワーカーらと共に皆様の診療のお役に立てるよう、より一層の努力をしていきたいと存じますのでよろしくお願い致します。



消化器内科
医療安全推進部長
安達 雄哉



長さ 26 × 幅 11 mm 重さ 3.45g



PillCam® SB 3

診療科発

歯の移植・再植

歯の移植・再植は、現在では保険診療にも取り入れられ、広く行われています。当科でも10年以上前から行っており、最近1年間では移植30症例・再植15症例ほど行っていました。移植・再植の臨床成績については、多くの臨床研究で95%以上の成功率が報告されており、当科の症例でも経過観察期間が最長10年程度と短期間ではありますが、ほぼ同程度の治療成績が得られています。移植歯のドナーとしては歯根完成後の智歯を使用することがほとんどで、移植先は小臼歯部～大臼歯部になります。意図的再植は、難治性根尖性感染病巣を持ち歯根端切除術の適応が困難な大

臼歯に行っていますが、破折することなく抜歯できればほぼ確実に適応できます。患者の年齢層は20歳代～70歳代前半まで広い年齢層に行っていますが、創傷治癒や顎骨修復機能に問題が無ければ年齢制限は無いと考えています。

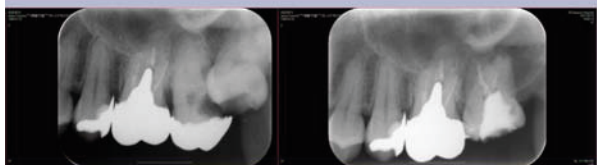
これまで保存することを諦めていた歯や、機能していなかった智歯を機能歯として再生できる可能性がある移植・再植は、非常に有用な治療方針の一つであり、今後さらに症例数を増やしていきたいと考えています。



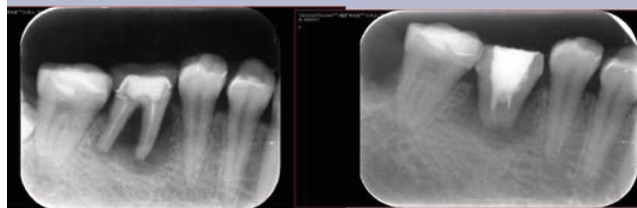
歯科口腔外科
科長

小林 一三

左上顎8⇒左上顎7部移植



右下顎8⇒右下顎6部移植



新任医師紹介

①略歴 ②専門分野 ③趣味 ④一言



皮膚科 村松 憲

①平成23年北大卒、北海道大学病院と帯広厚生病院で初期臨床研修。平成25年北海道大学皮膚科学教室入局。KKR札幌医療センター皮膚科、北海道大学病院皮膚科で診療。平成31年北海道大学大学院医学研究科博士課程修了し、平成31年4月から当院勤務。

- ②天疱瘡や類天疱瘡などの自己免疫性水疱症
- ③人工知能
- ④個々の患者さんに応じた医療を提供するべく尽力いたします。



皮膚科 菊地 一博

①平成10年北大卒、北大病院研修医、市立旭川病院研修医、北大免疫制御研究所、理化学研究所を経て北大皮膚科に入局。北大病院、帯広厚生病院、市立釧路総合病院、市立札幌病院皮膚科に勤務。当科は平成26、27年度に1回目、平成31年度から2回目の勤務。

- ②皮膚科専門医、皮膚科一般、自己免疫水疱症、アトピー性皮膚炎
- ③城跡巡り、天体観測、卓球
- ④患者さんや同僚の皆様の力になれるよう頑張ります。宜しくお願いします。



泌尿器科 小林 進

①平成23年 旭川医科大学卒業、旭川医科大学病院、深川市立病院、北見赤十字病院勤務を経て平成31年4月よりJR札幌病院勤務

- ②泌尿器科
- ③ファイターズ観戦
- ④泌尿器科医としてお役に立てるよう努力させていただきます。

診療
最新情報

排便造影検査

「便が出ない・・・」、「気付いたら便が漏れてしまう・・・」などで悩んでいませんか？ **“便秘”、“便失禁”は適切な診断、治療で良くなる可能性があります。**もっと言えば、正しい診断が重要です。

便秘を原因で考えると、大腸の形態的变化を伴う便秘「器質性便秘」と形態的变化を伴わない便秘「機能性便秘」に大別されます。器質性便秘の原因疾患の代表例としては大腸癌、直腸癌などがあります。大腸癌では大きくなった癌が便の通過を妨げ便秘を来します。これは大腸内視鏡検査で診断可能です。直腸癌は、排便でいきんだ際に直腸に圧が加わると直腸の前側が腔のなかに向かって膨らみ、いきんでも便が出にくいといった症状がでます。この診断には**“排便造影”が有効です(図1)。**このようなタイプの便秘に対しいくら下剤を内服しても根本治療にはなりません。**便秘は、“下剤”だけでは治りません。便秘の原因を把握することが重要です。**

便が漏れてしまう**“便失禁”**も同様で、なぜ便失禁になるのか？ 原因をつきとめるのが正しい治療への第一歩で

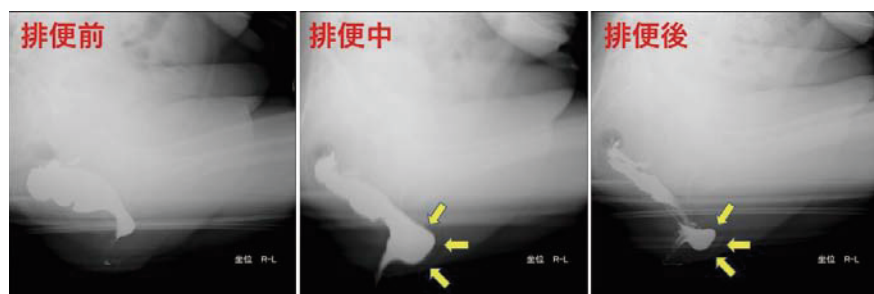


図1 直腸癌では、排便時に直腸の前壁が膨らんで（排便中：黄色矢印）、その部位に便が残ってしまい（排便後：黄色矢印）便秘、残便感を生じます。

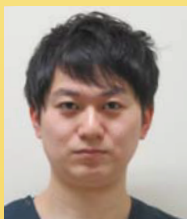
す。直腸が肛門から垂れ下がって脱出してしまふ**“直腸脱”**が原因の場合には、まずは直腸脱の治療が必要です。直腸脱を手術で治した後に便失禁も改善される場合があります。大きな直腸脱の場合には**見てすぐ診断がつきますが小さい場合には“排便造影”が有効です。**

排便造影検査は、粘性のある疑似便（粘り気をつけたバリウム）を直腸内に注入し、排便検査台の上で肛門から排出してもらいます(図2)。その疑似排便工程時の直腸・肛門の動きを連続撮影することにより直腸癌、直腸脱等の診断が可能となり、また、骨盤底筋協調運動能が評価できます。

“排便造影検査”は、直腸肛門に関わる病気診断には重要な検査です。便でお困りの方は、是非、JR札幌病院外科を受診してみてください。



図2 排便造影検査：排便検査台の上で疑似便を排出してもらい、その過程を連続撮影します。



腎臓内科 伊野 祥哉

- ①平成26年札幌医大卒、製鉄記念室蘭病院で初期研修後、札幌医大循環器・腎臓・代謝内分科入局。札幌医大付属病院、函館五稜郭病院、小樽市立病院、札幌医大付属病院を経て平成31年4月より当院勤務。
- ②腎臓内科・循環器内科全般

③映画鑑賞

④腎臓、循環器、糖尿病内科と幅広く診療していきたいです。患者様の希望に添える医療を心掛けます。宜しくお願い致します。



外科 藤野 紘貴

- ①平成27年札幌医大卒、函館五稜郭病院で初期臨床研修を終了後、平成29年に札幌医科大学消化器・総合、乳腺・内分泌外科に入局。札幌医科大学付属病院で2年勤務の後、平成31年4月から当院勤務。
- ②消化器外科・一般外科

③野球・テレビ

④至らない点もたくさんありますが、若手らしくフットワーク軽く頑張ります。よろしくお願いします。

最近の話題

多目的TV新装置

2010年の新病院から使用していましたTV装置が、今年春に新しく更新されます。

この装置は透視画像やデジタル画像では評価の高かった前回の機器の最新版となっております。国産であるこの装置は被験者への配慮が十分に考慮されています。高画質でありながらも可能な低被爆。高齢者でも寝台に移動しやすい寝台の低さは安全面から見ても安心出来る装置であります。検査装置にも新機能が搭載され、代表とされるのがT-smartです。これは逐次近似方を取り入れた画像処理の名称で、従来では画像に出現していた金属アーチファクトを画像処理する事でアーチファクトの低減が可能となりました。パンフレットにも画像が紹介されて

います。これによりインプラントの周りの骨画像も鮮明な画像となりました。骨の画像評価にも期待される機能です。従来よりあった、胃のバリウムや嚥下造影などで使用していた透視画像も新装置となり画質は良くなっております。また耳鼻科や整形外科分野で利用されていたTomosynthesis。下肢や脊椎などで使用されていた全長撮影ももちろん搭載されており、以前の装置より質の高い検査をすることが出来ると思います。今年春からは、新しいTV装置で患者さんに優しく、質の高い画像をお届け出来るようスタッフ一同期待しているところであります。



中央放射線室
秋林 毅幸



移動しやすく安全な寝台の高さ



T-smartによるアーチファクトの低減



より鮮明となったTomosynthesis

栄養管理室
便り

行事食

行事食とは、季節折々の伝統行事などの際にいただく料理、特別な行事の時の華やかな食事の事を言い、旬の食材を取り入れたものが多く、季節の風物詩の一つにもなっています。当院の栄養管理室では、年間約30回(月に1回以上)その時期の季節の食材を使用し、歳時に合わせた行事食の提供を行っています。今年度も、大晦日、クリスマス、ひな祭り、春分の日、開院記念日など行事食を予定しており、今月は、6月15日札幌祭りで、お赤飯、季節の生アスパラを使った一品料理を提供します。また、行事食カードをお食事と共に配りし、そのカードに毎回患者様から、

「季節を感じることができて良かった」「こんな美味しい料理食べられると思っていなかった」等、好評のお言葉やご意見をいただき、献立の参考にさせていただいています。当院ならではの行事食として、10月14日鉄道の日があります。毎年、ポッポ饅頭を提供していますが、今年度は懐かしの駅弁として、蟹飯弁当を計画しています。今後も、患者様が入院中に少しでも季節を感じ喜んでいただけるような献立を考え、1日も早い回復を願い、スタッフ一同心をこめ提供していきたいと思っています。



栄養管理室
村仲 聡子



地域発

ごう在宅クリニック

なかじま ごう
院長 中嶋 豪 先生



ごう在宅クリニックは平成19年に中央区で在宅療養専門のクリニックとして開業し、札幌駅近くから訪問診療を行い、今年で13年目になりました。昨年の12月には南一条通りの北海道神宮頓宮近くに引っ越しを致しました。

この12年間で通算でのべ1,300名の患者様の在宅療養に関わらせて頂き、およそ300名ほどの患者様を看取らせて頂いております。

本来の医療とは検査を行ったり手術や薬を使って病気を治すものですが、在宅療養はどちらかというと、病気だけでなく老いやハンディキャップと付き添い生活を続けて行くためのものです。風邪や肺炎などの治療を往診で行くこともあります。患者様がどのように過ごしていけることが良いのかを考え、大切に、時には自宅で最期まで連れ添い、延命治療を行わないことも多々あります。

当院は医師、看護師、社会福祉士、併設ケアプランセンターのケアマネージャーが在籍し、地域連携室として相談窓口を開いております。身体についての相談はもちろん、介護や入院相談など、生活を続けるにあたって困っていることがあれば、地域連携室でそれぞれ専門の資格者が相談を承っております。

訪問での診療がほとんどですが、お電話で予約を頂ければクリニック外来での診察も行っております。どちらも

医療と介護の両方に関わる相談ができる診療を行っております。

また、地域で働いていらっしゃる医療職の方などのために、2歳児までの保育園「ごう在宅ほいくえん」を開いております。0歳児の保育に力を入れ、保育園に看護師が常駐し、軽度の微熱などには保育園でお預かりのできる体制(体調不良児保育)を組んでおります。

毎日小さなお子さん方の笑顔に触れていると、こちらも元気な気持ちになります。また、訪問診療をしている間に患者様の笑顔に触れたり、ありがとうとお声をかけて頂けると自分達もとても嬉しい気持ちになります。

在宅クリニックと保育園を通じて、患者様の生き方や、お子さん方の成長に触れ、私達スタッフも成長をさせて頂いております。仕事を通じて、老い方や生き方、家族の在り方を患者様から教えて頂き、また保育園を通して令和の時代に活躍する次の世代が健やかに成長できるよう、関わらせて頂いております。

これからも水と空気のようなクリニックでありたいと考えております。

スタッフ一同、地域の皆様に感謝し、これからも宜しくお願い申し上げます。



ごう在宅クリニック

〒060-0051 札幌市中央区南1条東2丁目8-2 札幌流通倉庫SRビル1階
TEL:011-802-7823 FAX:011-802-7824

院長 中嶋 豪

診療科 内科 緩和ケア内科

診療時間 9:00~17:00(予約制)

休診日 土曜・日曜・祝日

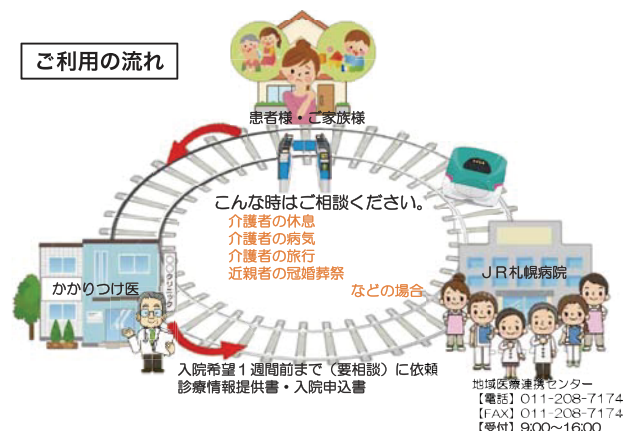
地域包括ケア病棟「レスパイト入院」のお知らせ

当院では平成28年度より在宅復帰に向けた医療やリハビリを行う「地域包括ケア病棟」を開設しています。このたび地域包括ケア病棟において在宅療養をされている患者さんのご家族を支援するためレスパイト入院を開始しました。レスパイト入院は、介護者の家族の諸事情で在宅療養が一時的に困難になった患者さんに医療保険を利用して一時的に入院して頂く制度です。詳細に関しましては、下記へご連絡ください。

【対象となる方】

1. 退院後はご自宅(居宅系施設を含む)に帰る方。
2. 胃瘻、腸瘻等の経管栄養、点滴、在宅酸素・痰の吸引、褥瘡処置などの医療管理が必要な方。
3. 介護保険によるショートステイの利用が困難または不安に感じる方。
4. 入院期間は7日を目安としていますが、可能な限り相談に応じています。

担当：地域医療連携センター 中澤、宮下、大村
電話・FAX 208-7174



クイズに答えて
景品を当てよう!!

JR札幌病院
間違い探しゲーム

2つの写真から、6つの間違いを探そう!
正解者には、抽選でクオカードがもらえるヨ
息抜き、暇つぶし、頭の体操にやってみよう~



応募要項

応募期間：令和元年6月1日~6月30日

応募方法：応募用紙の写真の間違い箇所に○を入れ、地域医療連携センター前に設置の応募箱へご投函、又は、紙面上の写真を切り取って(コピーも可)○を記入し、住所・氏名を記載の上郵送でご応募ください。

応募先：〒060-0033 札幌市中央区北3条東1丁目 JR札幌病院 地域医療連携センター
※氏名の公表を希望されない場合はペンネームを掲載いたします。

発表方法：広報誌『ほっとネット』紙面上にて発表いたします。

編集後記

人々が美しく心寄せ合う中で、文化が生まれ育つようお願いをこめて編集しました。

近頃は傷の治りも遅くなる年齢になりましたが、元号も変わり春を迎えると心躍るものがあります。改正労働基準法の施行もありお休みも増えそうなのでちょっと旅にでれたらと期待!!

(昭和生まれ 男性・編集委員)

発行日/2019年6月1日

編集長/吉田 英昭

編集者/大村 早代・小原健太郎・河野 通晴・中澤 英之・中村あゆみ
夏目 健文・正木 良紀・松本 道明

発行所/札幌市中央区北3条東1丁目

JR札幌病院 広報誌企画編集委員会

<https://hospital.jrhokkaido.co.jp/>